

六 月 二 日

よ し こ

廣き庭にとり残されて一人なり一すぢに園兒は、れんが、すすり居り  
一すぢに、れんが、をすすりて園兒居り 砂糖やさんの砂糖賣りとや  
石垣を半ばもほひて花うつぎ五月の雨に先だちて咲く

やゝゝに色の變りて今まさに七彩なりやあぢさゐの花

あぢさゐは七つの色にくちなしは床しき香へとこの雨は降る

その色はうす紅なれどいさゝかの憂ふくめりひるがほの花

せのびしつゝ二人の童ま青なるぶだうの實へと長き竿さす

末の子も復習の仲間なり父のデスクに倚りて繪本に見られる

託兒所座談會

話のすぢ身にせまり來れば速記する鉛筆に思はずも力のこもり來  
やくもすれば動く心を無表情に書きつゞく一字をもらすまじと